

次期森林計画についての森林管理署の検討方向

－ 目 次 －

1. 現行計画の概要

- (1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項
- (2) 国有林野の維持及び保存に関する事項
- (3) 林産物の供給に関する事項
- (4) 国有林野の活用に関する事項
- (5) 国民の参加による森林の整備に関する事項

2. 次期計画の検討方向

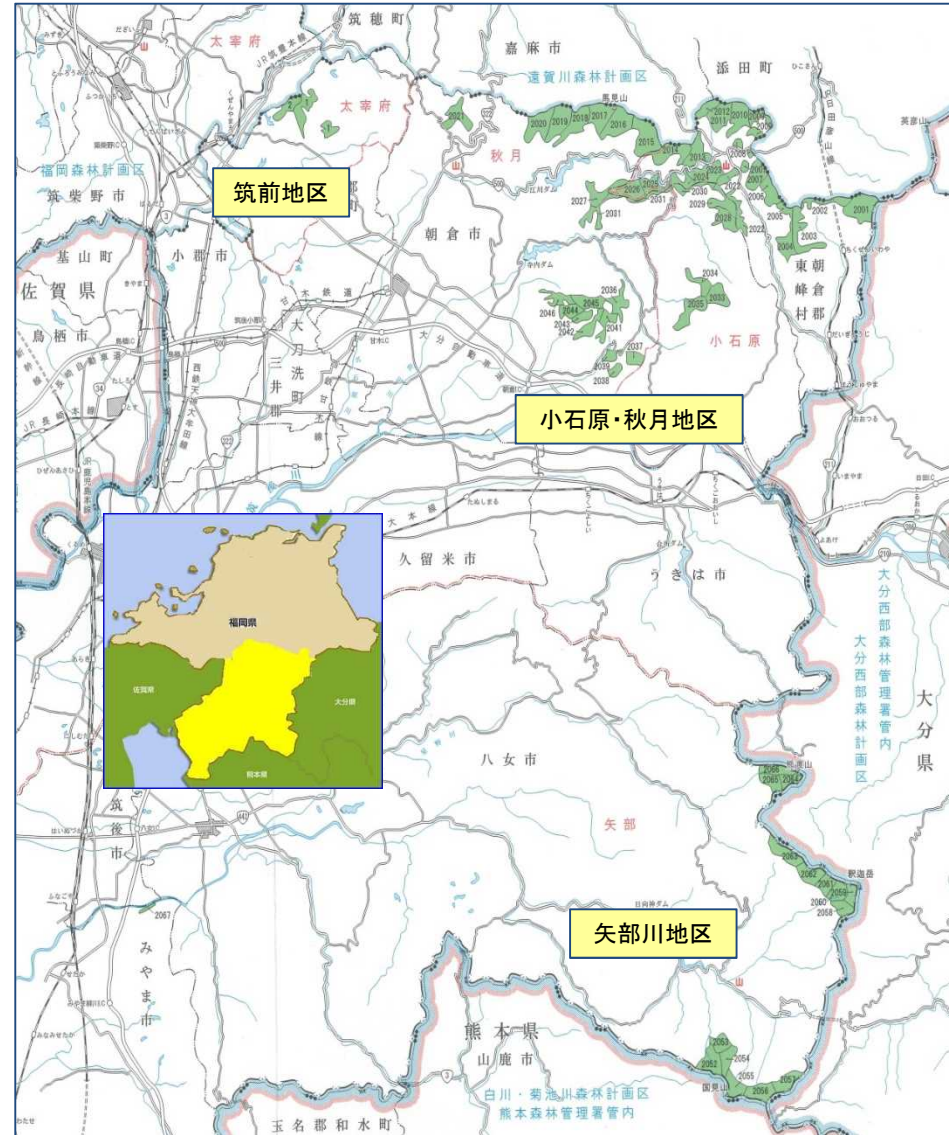
福岡森林管理署

1. 現行計画の概要（平成31年4月1日～令和6年3月31日）

・ 筑後・矢部川森林計画は、福岡県内の筑後地域と同地域の北側に接する福岡地域の南東部の計15市町村を範囲とし、県総面積約50万haの33%（約17万ha）を占めています。

・ 本計画区の国有林野は、3市1町1村に分布し、その面積は計画区内の森林面積（約66千ha）の6%（約4千ha）となっており、その27%を天然林、73%を人工林（うち、スギ45%、ヒノキ55%）が占めています。

・ また、国有林野の約96%が水源かん養保安林に指定されており、流域の治水対策、農業用水等の供給に重要な役割を担っているほか、南部には福岡県最高峰の釈迦岳（1,229.5m）が位置し、森林レクリエーションや保健休養林の場としての活用も求められています。



(1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

① 機能類型に応じた管理経営

国有林野の管理経営に関する基本計画に即して、開かれた「国民の森林」に向けた取組を推進するため、個々の国有林野を重点的に発揮すべき機能に応じて、5つの機能類型に区分し、それぞれの発揮すべき機能に応じて管理経営を行っています。

機能類型区分	機能区分の考え方	目指すべき森林の姿	面積(ha)
山地災害防止 タイプ	山地災害の防止及び土壌保全機能の発揮を重視	根や表土の保全、下層植生の発達した森林	745ha
自然維持 タイプ	原生的な森林生態系や希少な生物の育成・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を重視	良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の育成・成育に適した森林	16ha
森林空間利用 タイプ	保健、レクリエーション、文化機能の発揮を重視	保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林	213ha
快適環境形成 タイプ	快適な環境の形成の機能を発揮を重視	騒音の低減や大気の浄化など、人の居住環境を良好な状態に保全する役割を持つ森林	—
水源涵養 タイプ	水源の涵養の機能の発揮を重視第一とすべき森林	人工林の間伐や伐期の長期化、広葉樹の導入による育成複層林への誘導を図る森林であり、森林資源の有効利用にも配慮	3,027ha

② 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献

県・市町村等との密接な連携を図るとともに、組織力・技術・資源を活用し、民有林経営の支援等に積極的に取り組めます。



伐造一貫作業システムの現地検討会

(誘導伐実施箇所)



(コンテナ苗植栽箇所)



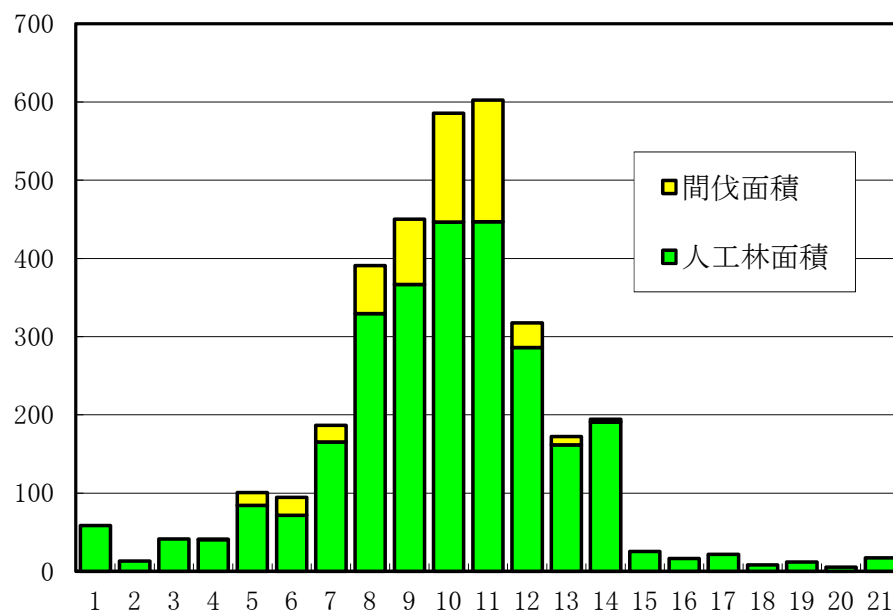
低コストモデル実証団地
(熊本南部署)での現地検討会

国有林内において、林業事業者、県の林業普及指導員、市町職員等の参加の下、低コスト造林や複層林化のための誘導伐等について現地検討会を行い、民有林への技術の普及に取り組んでいます。

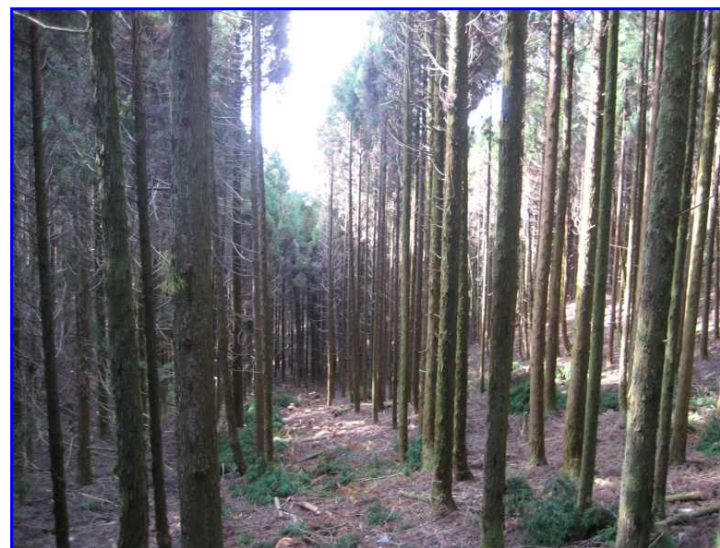
③ 地球温暖化防止に向けた積極的な間伐等の推進

本計画区の人工林の面積は約2,790haで、16年生から60年生の人工林の面積は約2,436ha（人工林面積の80%）です。

また、現行計画（H31年度～R5年度）では間伐を約546ha計画しており、森林吸収源対策のためにも間伐を推進しています。



注：1年齢級は1～5年生を表します。



列状間伐は作業効率が高く、かつ安全性が高いことから、1回目の搬出間伐では、原則として列状間伐としています。

④ 多様で健全な森林の整備・保全

間伐をはじめとした森林整備に積極的かつ着実に取り組むとともに、針広混交林化、複層林化、長伐期化などを通じて、多様で健全な森林の整備・保全を推進します。



現状(人工林)



複層林化



長伐期化された森林

⑤ 国民生活の安全・安心の確保に向けた 効率的・効果的な治山事業の展開

安全・安心の確保に向けた効率的・効果的な治山対策に取り組んでいます。



平成29年7月の九州北部豪雨の被災地では、谷止工、山腹工等による早期復旧を図っています。



治山対策の実施箇所においては、地域住民の意見も聞きながら工事を実施しています。

(2) 国有林野の維持及び保存に関する事項

① 生物多様性の保全(保護林)

本計画区には貴重な天然林等が多数存在しており、これらについては保護林を設定し、適切に保護・保全を図っています。

行者スギの父「大王スギ」



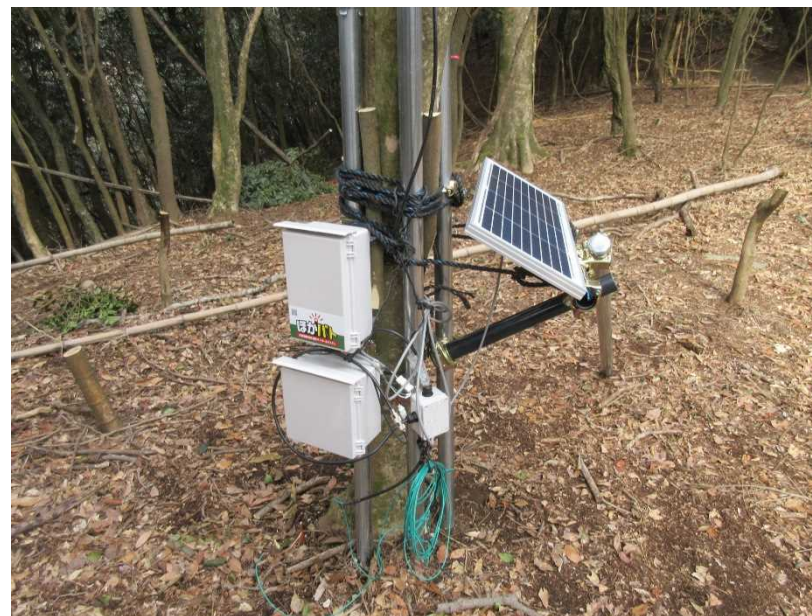
英彦山の修験者が植栽した林齢300年以上の杉林等を保護しています。

② 野生鳥獣被害対策

古処山系では、ニホンジカ生息密度が高く農林業被害や下層植生の食害が著しいことから、防護柵の設置や、市町村及び狩猟者団体と連携した捕獲を推進しています。



ニホンジカ生息数が顕著な地域では、植栽の際にシカ防護柵を設置しています。



東峰村・東峰村猟友会、森林管理署の三者による「シカ被害対策協定」に基づく捕獲、無線式捕獲パトロールシステムによるICTを活用した捕獲を推進しています。

(3) 林産物の供給に関する事項

○ 高効率・低コストな作業システムの定着

伐採、造林等の事業の実施の効率化を図りつつ、健全な森林を整備するとともに、木材の需要動向や木材産業の状況等を的確に把握しつつ、国有林材の安定的な供給を推進しています。



国産材の需要拡大等に取り組む製材工場等と協定を締結し、木材を安定的に供給する「システム販売」を推進しています。



請負事業者とともに、日報分析及び作業システムの改善のための勉強会を行い、素材生産の生産性向上を推進しています。

(4) 国有林野の活用に関する事項

○ 森林のレクリエーション利用

国有林野の観光資源としての利用を推進します。



東峰村小石原に位置する行者スギは、樹齢300年で観覧者が多く、木製保護柵や木製看板を設置しています。



福岡県最高峰の釈迦岳や御前岳の登山道は、八女市に貸付しており、多くの登山者に利用されています。

(5) 国民の参加による森林の整備に関する事項

○ 国民参加の森林づくり

国有林野をフィールドとした国民参加の森林づくりを推進しています。

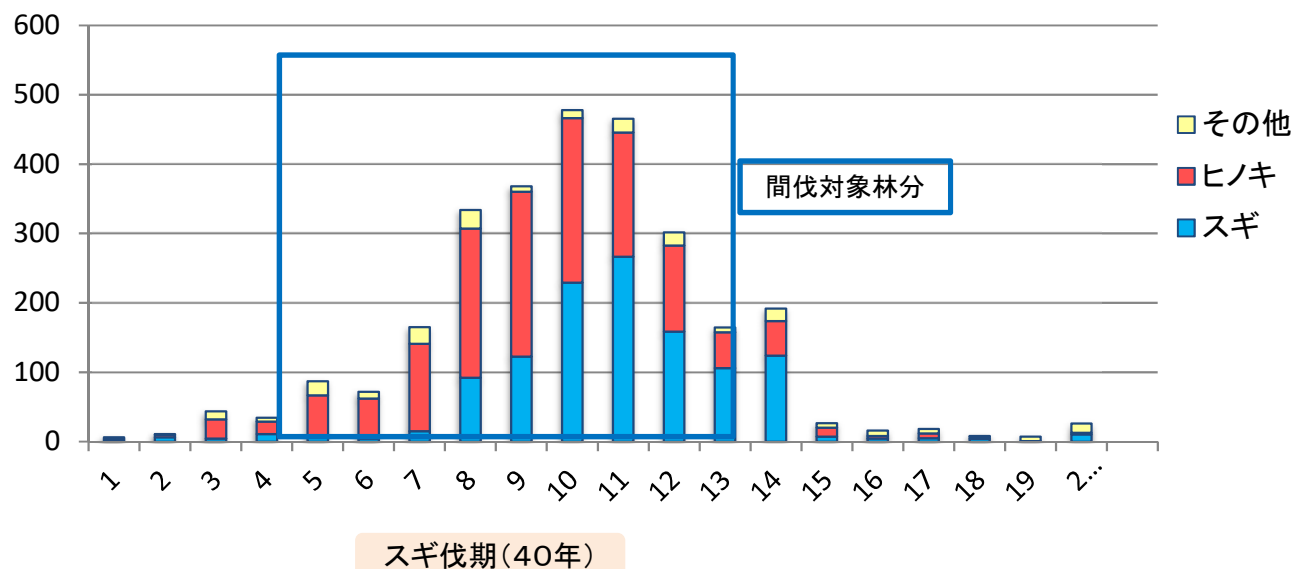


「法人の森林」により分収造林契約を締結し、森林づくりに参加・協力したいという企業の要請に応じています。

2 次期計画の検討方向

(1) 管理経営上の課題

- 本計画区の国有林野が有する水源かん養機能や保健文化機能等の公益的機能の発揮を高めていく必要があります。
- 次期計画における間伐対象となる16年生から60年生の人工林の割合は83%と現行計画と同程度であり、森林の公益的機能の維持増進や森林吸収源対策の観点から、引き続き間伐を推進する必要があります。
- 主伐後の再造林を着実に実施し、森林資源の循環利用を行うことにより、林産物の供給も含めた森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図る必要があります。



- ニホンジカ生息密度が高い地域では、防護柵等の被害防除やニホンジカの捕獲を推進する必要があります。
- 本計画区には観光資源として親しまれている保護林があることから、その管理を適切に行っていく必要があります。
- 「新しい林業」を実現するため、素材生産の作業システムの改善による生産性向上と、造林の低コスト化を進める必要があります。
- 地域における木材の安定供給体制の整備、原木の加工、流通の合理化等に資するため、木材の安定供給システム販売に引き続き取り組む必要があります。
- エネルギー原料としての利用等新たなニーズに応えるため、これまで利用してこなかった林地残材等の利用を進めていく必要があります。
- 国民が安全・安心に暮らせる環境づくりに向けて、治山対策に継続して取り組む必要があります。

(2) 計画内容

- 公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を行うとの方針の下、多様で健全な森林の整備・保全を行うほか、森林吸収源対策として引き続き間伐を推進するとともに、主伐後の再造林を着実に推進する方向です。
- 貴重な植物種の保護を目的とする保護林については、現状を維持する方向です。
- ニホンジカ生息数の密度が高い地域では、防護柵等の被害防除やニホンジカの捕獲を推進します。
- 「新しい林業」を実現するため、素材生産の作業システムの改善による生産性向上及び造林の低コスト化を推進します。
- 引き続き木材の安定供給システム販売を推進するとともに、これまで利用されてこなかった林地残材等は、有効利用及び地拵えコストの低減を図るため、販売にも努める方向です。